

企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

エントランスギャラリー 1F

■ スマートリゾート
(2020年4月～6月)

デジタル技術を活用し、地域の生産性や持続性を高め、高い国際競争力を持った地域を形成する「スマートリゾート」に取り組む海外の事例をご紹介します。



展示ウォール B1F

■ 「デスティネーション・ガバナンス」(2020年4月～6月)

機関誌「観光文化245号」の特集に関連した当館蔵書を紹介します。

特別展示

貴重書ギャラリー 1F

■ 紀元2600年と1930年代の観光政策 (2020年4月～6月)
— オリンピックとツーリズム —

1940(昭和15)年は、明治政府が定めた紀元(皇紀)2600年にあたり、国内では様々な奉祝記念事業が開催されました。この記念事業として開催が予定されながら実現にいたらなかった3つの国際イベント(夏季オリンピック東京大会、冬季オリンピック札幌大会、日本万国博覧会)とともに、日本が世界にアピールすべく国際観光政策を強く推進した時代を辿ります。



ガーデンラウンジ&メインテーブル 1F

■ 「JAPAN」コーナー

訪日外国人向けの日本のガイドブックや日本の魅力を紹介する本を充実しました。

■ オリンピック関連図書コーナー
(一般書、小中学生向け)

継続展示中!

1F

■ 「旅の図書館オススメの一冊」

■ 「旅心を誘う、旅の本のレジェンド30選」

■ 「ふるさとパンフレット大賞」受賞作品
(地域活性化センター協力)

B1F

■ 「観光と図書館
地域の観光に図書館はどう寄与できるか」

■ 「公益財団法人日本交通公社が
お勧めする研究書&実務書100選」

■ 当財団専門委員が選んだ「わたしの一冊」

一度は訪ねたいライブラリー

当館が取材した図書館の中から、観光地の魅力づくりに寄与している各地の図書館や観光に役立つ図書館などを紹介します。

恩納村文化情報センター(沖縄県恩納村)

沖縄本島のほぼ中央、那覇市から国道58号線を1時間半ほど走った西海岸に位置する恩納村は、人口1万人の小村でありながら本島の宿泊施設収容力の約2割が集まる県内屈指の観光・リゾートの村です。そんな村に2015(平成27)年4月に開館した恩納村文化情報センターは、村民が長く待ち望んだ施設であると同時に、村の基幹産業である観光と図書館の融合を目指した施設であるという点で、国内では数少ない事例の一つです。

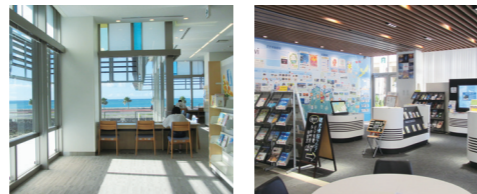
その試みは、様々なところに見ることができます。たとえば、集客効果を高めるための恩納村博物館への併設、「旅の案内人」が常駐し、恩納村及び沖縄北部へのゲートウェイとなる観光情報フロアの設置(村民と観光客参加による村の魅力の発

信)、全国どこに住んでいても本を借りることができるサービス、さらには本を借りると隣接する「おんなの駅」の商品が5%割引される「割引クーポン」、村内リゾートホテルへのミニライブラリーの設置(図書館蔵書を一定期間ホテルへの貸し出し)等々。

公共図書館の主たる利用対象は地域住民ですが、多くの観光客の来訪によって成り立っている観光地においては、観光客も図書館の重要な利用者としてより意識されてもいいのではないのでしょうか。「観光客に来てもらってこそ、村の魅力が発信できる」との考えのもと運営されている恩納村文化情報センターは、今後の観光地の図書館のあり方に大きな示唆を与えてくれるように思います。沖縄を旅する機会にはぜひ立ち寄りほしい図書館です。



水辺に面した建物全景。左側は博物館



海が見える閲覧席

1階の観光情報フロア

※機関誌「観光文化243号」の特集(「観光と図書館」)にも紹介しています。こちらもぜひご参照ください。

たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 11

2020年4月号



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

分類を一部改訂しました

旅の図書館の独自分類には、観光・旅行の専門資料に対応した「T(Tourism)分類」と、当財団(当館)の特徴的なコレクション資料の分類に用いる「F(FOUNDATION)分類」があります。いずれも、当館の専門性に対応し、資料をわかりやすく管理し利用していただく上で欠かせない分類方法です。

このたび、F分類に「観光関連社史」と「UNWTO資料」を新たに組み込み、分類体系の一部を見直しました。現在、観光関連社史には、旅行業、運輸・交通業、宿泊業等に関する企業・団体社史約400冊があり、観光事業の歴史研究に有益です。また当館は国連世界観光機関(UNWTO)の寄託図書館に認定(2017年)されており、国際レベルでのツーリズムの動向を知ることができます。

当館ならではのコレクション資料をこれからもぜひご活用ください。



Check

第19回たびとしょCafeを開催しました(1/24)

テーマ 「文化・文化財の観光活用について～文化庁の取り組み～」
 ゲストスピーカー 村上佳代氏 (文化庁 地域文化創生本部 広域文化観光・まちづくりグループ 文化財調査官)

2020年1月24日(金)、「文化・文化財の観光活用について～文化庁の取り組み～」をテーマに、第19回たびとしょCafeを開催しました。ゲストスピーカーには、文化庁初の観光分野の専門職としてご活躍中の文化庁 地域文化創生本部 広域文化観光・まちづくりグループ 文化財調査官の村上佳代氏をお招きしました。

“観光は文化のプロモーター”であり、観光客が地域の文化に親しみ感動することで地域の中に誇りが生まれ、地域固有の文化の継承や発展につながり、そのことがさらに地域の魅力アップにつながっていくという、良い循環の形が望めます。一方で、この良い循環が実現するためには、地域や文化と観光とのバランスを保つことが不可欠とお話いただきました。

今回のたびとしょCafeには、文化財の所有者、コンサルタント、行政職員、観光事業者、研究者と、様々な立場の方にご参加いただきました。地域や文化と観光との適切なバランスとは何かを考え、そのバランスを保っていくためには、多くの意見を交わして知見を積み重ねていくことが欠かせません。

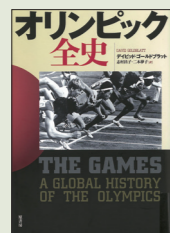


特別企画 | 今だからこそ読んでおきたいこの本

オリンピック全史

デイビッド・ゴールドブラット 著
 志村 昌子 他訳 原書房
 2018年10月 A5判 467頁

近代オリンピックの誕生、発展、変貌の歴史の全貌がこの一冊に凝縮。時代と共に巨大イベントへと変貌していく過程がよくわかり、読み応え十分。



東京オリンピックの誕生: 一九四〇年から二〇二〇年へ

浜田幸絵 著 吉川弘文館
 2018年11月 A5判 288頁

幻に終わった1940年、初の開催が実現した1964年、そして2020年へとつながる東京オリンピックの歴史を、メディア史から描き出す。



あったかもしれない日本 一幻の都市建築史

横爪紳也 著 紀伊國屋書店
 2005年11月 A5判 254頁

タイトルから惹かれる。建築史・都市文化研究の第一人者である著者の目を通して、夢に終わったプロジェクトに「もうひとつの」国のかたちを読む。



幻の東京オリンピックとその時代

一戦時期のスポーツ・都市・身体
 浜田幸絵 著 吉川弘文館
 2018年11月 A5判 288頁

1940年に開催が予定されながら返上した「幻の東京オリンピック」の実態が、国際情勢や戦時下のスポーツ界の動向などから見えてくる。

幻の万博

一紀元二千六百年をめぐる博覧会のポリティクス
 暮沢剛巳・江藤光紀・鯖江秀樹・寺本敬子 著 青弓社
 2018年9月 四六判 298頁

紀元二千六百年を記念して計画され、東京オリンピックとともに幻に終わった万国博覧会が目指していたものとは？

旅の図書館オススメの一冊！

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します！



1 地名崩壊

今尾恵介 著 角川新書 2019年11月 新書 264頁

市町村合併や新駅誕生などで新しい地名が誕生する一方、自然や暮らしと結びついた古くからの地名が消えている。地名の成立と変化を追い、あるべき姿を考える。

2 旅の効用 人はなぜ移動するのか

ペール・アンデション 著 畔上司 訳 草思社 2020年1月 四六判 352頁

スウェーデンの人気作家が「旅に出る理由」をさまざまに考察するエッセイ。ネット時代の現代人に贈る旅のススメ。

3 まちづくり再考 一現場から学ぶ地域自立への道しるべ

岡崎昌之 著 ぎょうせい 2020年1月 A5判 211頁

地方自治に関する英知の継承を目的とした「自治立志塾」(自治体学会)のセミナーを書籍化。草の根的なまちづくりの変遷、これからのまちづくりの視点を解説。

4 ガイダンス インバウンド・観光法

森・濱田松本法律事務所観光法プラクティスグループ 編 荒井正児・佐伯優仁・高宮雄介・水口あい子・根橋弘之・山本義人 著 商事法務 2019年12月 A5判 336頁

急増する外国人旅行者、拡大するインバウンドビジネス。観光関係事業の法規制、法務問題を弁護士陣が概観した法務ガイドブック。

5 ホテル・旅館のビジネスモデル-その動向と将来-

大野正人 著 現代図書 2019年12月 B5判 233頁

宿泊施設の事業スキームの構築について、主にマーケティングの視点から整理。各種のデータを読み解き、今後のホテル・旅館経営の将来を示唆。

6 外国人だけが知っている「観光地ニッポン」

ステファン・シャウエッカー 著 大和書房 2020年2月 四六判 256頁

日本を英語で世界に紹介するサイト「ジャパンガイド」。その運営者であるスイス人著者が、日本人の知らない日本の魅力を外国人目線で紹介。

7 図説精読 日本美の再発見 タウトの見た日本

ブルーノ・タウト 著、篠田英雄 訳、沢良子 編 岩波書店 2019年11月 A5変 268頁

日本的な美を見出し世界に広めた名著「日本美の再発見」。タウトの美意識が、豊富な写真やスケッチから蘇る。

8 震災復興と展望 一持続可能な地域社会をめざして (シリーズ 被災地から未来を考える③)

吉野英岐・加藤眞義 著 有斐閣 2019年8月 A5判 316頁

東日本大震災から早9年。持続可能な地域社会の再構築につながる復興とはどうあるべきか。東日本大震災後8年間の復興の過程を社会学の視点で検証する。

9 はじめてでもわかる! 自治体職員のための観光政策立案必携

羽田耕治 編 第一法規出版 2020年2月 A5判 252頁

多岐にわたる観光行政。観光の「基礎理解編」と、観光地マーケティング、観光計画の策定、専門家の活用等を解説した「実践編」に分けて詳しく紹介。

10 客室乗務員の誕生 「おもてなし」化する日本社会

山口誠 著 岩波書店 2020年2月 新書 252頁

タイトルから興味深い。今なお高い人気を誇る客室乗務員が、「おもてなし」の源流となっていく過程を著者の独特の視点から考察。